

Sports Fukushima

スポーツふくしま

42
2019.12

(公財)福島県体育協会 〒960-8043 福島市中町8番2号 福島県自治会館6階
TEL 024-521-7896 FAX 024-521-7971



みんなでスポーツを!
Let's play sports together!



巻頭言

さあ！福島プライド！！

東京オリンピック・パラリンピック開催までいよいよカウントダウンです。本協会では、本県の復興が着実に進んでいるという姿を国内外に発信する絶好の機会であるとともに、東日本大震災から10年という節目となる大事な年になることから、「オールふくしま」で各種事業に取り組むこととしております。また、一人でも多くの本県関係選手を輩出できるよう、全力で支援してまいります。

そのような中、先日貴重な資料が手元に現れました。「圧勝 ふくしま国体舞台裏の記録」という綴りです。令和最初となる第74回国民体育大会は天皇杯39位と3年ぶりに30位台となり、来年度以降の意欲が高まる結果となりました。本協会としても、ここ数年の結果を受け、競技力の向上には指導者の育成とスキルアップが必須であると考えていたさなかの出会いとなりました。私は、高揚感を感じながら、あっという間に読み切ってしまいました。その中に、「強化プロジェクトを進める上での配置指導者の条件」という項目があったのです。①しっかりした指導理念を持ち責任感が旺盛で、他人の意見に耳を貸せる度量がある人 ②誰にでも信念を持って必要なことが言える人 ③周囲に目標を公言し、それに向かって必死に努力する実行力のある人 ④常に全国的視野に立った指導ができる人 ⑤競技力分析が出来る人とありました。ふくしま国体時には多方面からの強化が進められ、重要プロジェクトとして指導者についても明記されていたことがわかります。24年たった現在でも、この条件は変わらないと感じました。ただ、変化があるとすれば指導者には人間力やコンプライアンスの徹底等、幅広いスキルが要求されるだけではなく、指導法に対しては、今までになく厳しい目を向けられていることでしょうか。本協会では、競技力を支えているのは指導者であるという信念の下、毎年競技団体に対し「指導者養成研修会」を実施し、自信と覚悟を持って選手の育成強化に御尽力いただいております。綴りとのおふとした出会いにより、先人の英知と今の我々の思いが重なることに勇気をいただきながら、競技団体との連携を深めていきたいと思っています。

もう一つ障がい者スポーツに関してですが、本県障がい者スポーツ業務は平成28年度より障がい福祉課からスポーツ課に移管されました。これは東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に障がい者スポーツの普及と競技力の底上げを図るためのものです。その業務の中で

も重要なイベントが「全国障害者スポーツ大会」への参加であります。今年度は台風の影響で初めて中止になりました。本県選手団も会場である茨城から次の日には引き返すという事態となり、我々は選手の保護者の方々と県庁で出迎えをしました。バスを降りてくる選手の皆さんに「お疲れ様でした。」と声をかけました。しかし、選手の表情は晴れてはいませんでした。「どうかしましたか?」と確認したところ「学校でたくさんの人に激励されたのに、大会に出られなくて申し訳ない。」「親に頑張っていて言われたけど頑張れなかった。」「あんなに練習してきたのに残念だ。」との返事でした。私は各選手の本大会に臨む気持ちを間近に感じ、ハッとさせられました。もちろん、気象条件が理由であり、選手に責任はありません。しかし、障がい者アスリートの方々は本大会に参加する意義を強く自覚していたのです。

私たちは、スポーツを通して多くのことを感じ、学び、新たな自分を見出すことができます。そこには健常者・障がい者に何の壁も存在しないのです。

私は今このような立場で働かせていただくことで、様々な方々と関わる幸運に恵まれています。先日、ラグビー元日本代表の山田章仁選手と話す機会がありました。今回のラグビーワールドカップで日本が大躍進した理由を聞いたところ、間髪入れずに「いい仲間と戦えたことでですよ。」と答えてくれました。「技術や戦術、体格・体力も大切ですが、最後は仲間」とその重要性を熱く語ってくれました。「スポーツ」と言っても様々な視点があり、奥深さに悩まされる日々が続いています。しかし、その「スポーツ」が持つ見えない力に惹きつけられていることも事実です。

県内にはスポーツに親しみ、スポーツを観戦し、スポーツを支える人々が数多くいます。スポーツを通して、人として生きるために必要なことを自然に身につけることができるのです。それは、豊かな人生を送るための要素に繋がります。「スポーツ」と関わることで、我々はプライドを持つことができるはずです。

皆さん、今こそ、

「さあ！福島プライド！！」です。



公益財団法人福島県体育協会
専務理事 尾形 幸男

も

P1 巻頭言

く

P2 第74回 国民体育大会成績

第74回 国体本大会競技別成績・活躍選手と監督の寄稿

じ

P9 生涯スポーツキャンペーン2019

親子体操教室・指導者養成講習会 (in南相馬市)

P10 あそんで体力アップアップ事業

P11 ふくしまから世界へ!「ふくしま」アスリート強化支援事業

P13 認定アスレティックトレーナースキルアップ講習会・
認定スポーツ栄養士スキルアップ講習会

P14 公認アシスタントマネジャー養成講習会

P15 指導者・講師派遣補助事業

P16 特例認定NPO法人 いわきFスポーツクラブ

P17 東京2020オリンピック・パラリンピック
復興ふくしま推進会議&ふくしま大交流ミーティング
2019プロ野球イースタン・リーグ公式戦 &
日本女子ソフトボールリーグ1部第8節 福島大会

P18 福島県体育協会賛助会員名簿・編集後記

【表紙写真説明】 第74回国民体育大会(①③写真提供:福島民友新聞社掲載)
①左上:陸上競技(藤宮 歩選手) ②左下:トライアスロン競技(錦崎隆也選手)
③右上:自転車競技(男子チーム) ④右中央:ウエイトリフティング競技(近内三孝選手)
⑤右下:ボート(少年女子チーム)



福島民友新聞掲載

第74回 国民体育大会成績

① 参加状況

区 分		会 期	開 催 地	団 長	参 加 競技数	派遣人数			
大 会						役員	監督	選手	合計
冬季大会	スケート競技会 アイスホッケー競技会	H31.1/30(水) ～2/3(日)	北海道 北 釧 路 市	佐藤 英壽	2	11	4	38	53
	ス キ ー 競 技 会	H31.2/14(木) ～2/17(日)	北海道 北 札 幌 市	鈴木 安一	1	10	8	44	62
本 大 会		R1.9/28(土)～10/8(火) 会期前競技：9/7(土)～16(月)	茨 城 県	須佐 喜夫	34	17	62	359	438

② 競技成績

区 分		天 皇 杯				皇 后 杯			
大 会		競技得点	参加得点	得点合計	順 位	競技得点	参加得点	得点合計	順 位
スケート競技会		16点	10点	26点	19位	16点	10点	26点	18位
アイスホッケー競技会		0点	10点	10点	11位	—	—	—	—
ス キ ー 競 技 会		11点	10点	21点	13位	7点	10点	17点	10位
本 大 会		356.5点	370点	726.5点	34位	111点	330点	441点	36位
合 計		383.5点	400点	783.5点	39位	134点	350点	484点	36位

第74回 国体本大会競技別成績・活躍選手と監督の寄稿

●水泳競技 競技得点 2点 天皇杯 44位 皇后杯 36位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
少年男子B	50m自由形	8	1	野 矢 育 夢	尚志高等学校 1年
少年女子B	50m自由形	8	1	秋 山 葉 名	福島成蹊高等学校 1年



競泳 野矢育夢選手

●ボート競技 競技得点 12.5点 天皇杯 14位 皇后杯 8位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
少年女子	舵手付クォドルプル	5	12.5	管 野 夢 華	田村高等学校 3年
				神 杏 奈	田村高等学校 3年
				今 泉 緑	田村高等学校 3年
				武 田 麻 央	田村高等学校 2年
				生 江 帆乃夏	田村高等学校 2年
				中 窪 姫美華	会津高等学校 3年



ボート 少年女子チーム

◆ 第74回 国体本大会競技別成績・活躍選手と監督の寄稿

●ボクシング競技 競技得点 5点 天皇杯 27位 皇后杯 21位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年男子	フライ級	5	2.5	藤 田 優 佑	駒澤大学 4年
	ライトウェルター級	5	2.5	國 分 奨 悟	東京農業大学 4年



ボクシング 國分奨悟選手

●バレーボール競技 競技得点 10.5点 天皇杯 20位 皇后杯 18位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
少年男子	ビーチバレーボール	5	10.5	立 谷 純太郎	相馬高等学校 3年
				森 謙志郎	相馬高等学校 3年



ビーチバレーボール 少年男子

●陸上競技 競技得点 42.5点 天皇杯 20位 皇后杯 25位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年男子	三段跳	3	6	山 下 航 平	A N A
	砲丸投	8	1	佐 藤 皓 人	日本大学 2年
成年女子	400m	8	1	武 石 この実	東邦銀行
	110mH	7	1.5	小 野 和 人	郡山東高等学校 3年
少年男子共通	800m	2	7	安 倍 優 紀	清陵情報高等学校 3年
	三段跳	7	2	齋 藤 優 汰	白河旭高等学校 2年
少年男子A	100m	5	4	秋 山 優 希	日本大学東北高等学校 3年
少年男子B	3000m	1	8	藤 宮 歩	学法石川高等学校 1年
少年女子共通	400m H	8	1	香 川 夢 花	磐城桜が丘高等学校 3年
	三段跳	4	5	野 崎 菜 優	日本大学東北高等学校 3年
少年女子B	走幅跳	3	6	外 島 央	会津学鳳高等学校 1年



陸上競技 小野和人選手(福島民友新聞提供)



陸上競技 外島 央選手(福島民友新聞提供)

国体を通して

陸上競技 学校法人石川高等学校 藤宮 歩

私は、福島県代表として少年B3000mに出場させていただきました。そこで、同種目では遠藤日向先輩以来となる優勝を果たすことができました。

このレースに至るまでを振り返ってみると春先は怪我に悩まされ納得のいく走りができませんでした。長期の怪我は、今までに経験がなく、走れない悔しさから諦めかけそうになったり、自分を見失いそうになった時もありました。しかし、松田監督や家族を初め、沢山の方々の温かい言葉や支えのおかげで、自分の弱い所を見つめ直し「今できることは何か」を考え、動き作りや補強に取り組みました。

7月頃には徐々に走れるようになり、夏合宿では質の良い練習をこなしていく事ができました。夏合宿以降で行われた大会では、自分の走りやレース感覚が完全に戻らず、負けてしまった事もあり、本当に悔しかったです。しかし、レースをこなしていく度に自分の感覚が戻り、質のある練習ができた事で、万全な状態にもっていくことができました。

そのような中、国体では、緊張もしましたが、それ以上に走れる事、戦える事への喜びを感じていました。松田監督や家族、支えてくださった方々への恩返しも含め、「絶対に優勝するんだ!」という気持ちで臨みました。

結果、接戦ではありましたが、8分19秒という自己ベストでの優勝でした。とても嬉しかったです。しかし、これに満足することなく、次の目標を持ち、走れる事への感謝の気持ちを常に忘れず、練習に取り組んでいきたいと思えます。



藤宮 歩選手

●体操競技 競技得点 4点 天皇杯 20位 皇后杯 19位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
男子	トランポリン	5	4	菊地 智周	東京学芸大学教職大学院 1年

●レスリング競技 競技得点 5点 天皇杯 44位 皇后杯 14位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	フリースタイル74kg級	5	2.5	今村 大地	日本大学 1年
	グレコローマンスタイル67kg級	5	2.5	河名 真寿斗	クリナップ株式会社

●ウエイトリフティング競技 競技得点 59点 天皇杯 7位 皇后杯 9位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子	73kg級 スナッチ	1	8	近内 三孝	日本大学(職)
	73kg級 C & J	1	8	近内 三孝	日本大学(職)
	81kg級 スナッチ	4	5	穴戸 大輔	日本大学 3年
	81kg級 C & J	3	6	穴戸 大輔	日本大学 3年
	89kg級 スナッチ	7	2	菅野 真央	株式会社カシワバラ・グラウンド
少年男子	55kg級 スナッチ	7	2	君島 一成	田村高等学校 3年
	55kg級 C & J	2	7	君島 一成	田村高等学校 3年
	73kg級 スナッチ	5	4	内藤 武蔵	田村高等学校 3年
	73kg級 C & J	3	6	内藤 武蔵	田村高等学校 3年
女子	55kg級 スナッチ	8	1	安藤 千鈴	東京国際大学 1年
	59kg級 スナッチ	2	7	遠藤 梨李	田村高等学校 3年
	59kg級 C & J	6	3	遠藤 梨李	田村高等学校 3年



トランポリン 菊地智周選手



レスリング 河名真寿斗選手



ウエイトリフティング 君島一成選手 内藤武蔵選手

いきいき茨城ゆめ国体を終えて

ウエイトリフティング競技 日本大学職員 近内 三孝

はじめに、この度の台風19号で被災した方々に深くお見舞い申し上げます。また、福島県体育協会には、日頃より御支援を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、いきいき茨城ゆめ国体にふるさと選手として参加させていただき、お陰様をもちまして、スナッチ種目優勝、C&ジャック種目優勝、総合優勝を果たすことができました。ありがとうございました。大会2週間前、タイ王国で行われた2019世界選手権に出場し、メダル獲得を逃したものの、日本新記録で6位入賞し帰国しました。減量していたこともあり調整無しで国体に臨みました。大会前は、正直80%の調子で試合を行おうと考えていましたが、福島のジャージに身を包み会場入りすると不思議と気持ちが高揚してきました。福島のユニホームに着替え、いざ試合が始まると、福島のスタッフやチーム、福島県関係者の方々の応援があり、さらに力が入り、故郷福島のために優勝したくなってきたのです。後輩に負けたくない気持ちもありましたが、私を一から世界で戦うレベルまで育ててくれた福島のために負けられないプライドや誇りが一番の理由だと思います。

今回の国体は、最高の形で恩返しできましたが、もう一つ私には恩返ししなければいけないことがあります。それは来年開催される2020東京オリンピックに出場することです。

ここ数年間は365日常にオリンピックのことを考えておりましたが、今回の国体を終え、さらにその想いが強くなりました。

私は現在、オリンピックに出場することが目標ではなく、メダルを獲得するために何が必要かを考え、日々の練習に取り組んでいます。田村高校時代から競技をはじめ、福島県の方々に御指導頂き、高校日本一になり、大学進学後も変わらない御指導・御支援を頂き、大学日本一になりました。また、数々の国際大会も経験させていただいております。2020東京オリンピックは、私にとって競技の集大成ではありませんが、自分自身のため、故郷福島県のために是非とも達成しなければならない目標と掲げております。

今後とも御支援のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



近内三孝選手

●自転車競技 競技得点 54点 天皇杯 5位 皇后杯 15位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年男子	個人ロード・レース	2	7	窪 木 一 茂	ブリヂストンサイクル
	1kmタイムトライアル	8	1	窪 木 一 茂	ブリヂストンサイクル
	スクラッチ	4	5	緑 川 竣 一	学法石川高等学校(教)
男 子	4kmチーム・パーシュート	3	18	窪 木 一 茂	ブリヂストンサイクル
				緑 川 竣 一	学法石川高等学校(教)
				風 間 翔 真	東北学院大学 4年
				中 村 龍 吉	中央大学 1年
女 子	ケイリン	6	3	三 森 彩 桜	日本競輪選手会福島支部
少年男子	個人ロード・レース	8	1	邊 見 竜 馬	学法石川高等学校 3年
	1kmタイムトライアル	2	7	三 神 遼 矢	平工業高等学校 3年
	ポイント・レース	3	6	邊 見 竜 馬	学法石川高等学校 3年
	スクラッチ	7	2	芹 澤 翔	平工業高等学校 3年
	ケイリン	5	4	邊 見 光 輝	学法石川高等学校 3年



自転車競技 男子チーム(福島民友新聞提供)

●フェンシング競技 競技得点 15点 天皇杯 15位 皇后杯 17位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年男子	エペ	4	15	佐 藤 篤 志	福島高等学校・福島北高等学校(教)
				菅 野 慶 嗣	川俣町フェンシングスポーツ少年団
				高 橋 恋	日本大学 4年

「チーム福島」で14年ぶりのベスト4

フェンシング競技 福島高等学校・福島北高等学校 教員 佐藤 篤志

第74回国民体育大会フェンシング競技会は茨城県水戸市において開催され、成年男子団体がエペ種目において4位入賞を果たすことができました。

昨年度の8位入賞を上回るべく、フルーレ種目で入賞を目指し、大学フェンシング界で活躍する日本大学・高橋選手と実績十分の菅野選手、選手兼任監督を私が務めるフルーレ種目を得意とするメンバーを中心に選手編成を行いました。

強化合宿や合同練習会などを通して、ベストコンディションで水戸入りし、試合に臨みました。しかし、フルーレ種目では、善戦したものの、二回戦で大分県、和歌山県の強豪県に惨敗してしまいました。思わぬ結果にショックは大きかったものの、メンバー同士で励ましあい、ミーティングを行い、気持ちを切り替えエペ種目に臨みました。エペ種目は苦しい試合展開が続きましたが一回戦、二回戦と勝ち進み、続くベスト8をかけた試合に駒を進めました。対戦相手は優勝候補筆頭の山口県です。日本代表クラスの選手がいる中で、私たちは「ベストを尽くすこと」だけに集中することで一致団結し、勝利を手にすることができました。続く岐阜県戦は勢いそのままに勝ったものの、準決勝では茨城県に惨敗し、3位決定戦も勝つことはできませんでしたが、福島県としては岡山国体以来14年ぶりのベスト4入りとなりました。

私は今回の勝因を「チーム力」にあると思います。苦しい展開にも「チーム力」で乗り切ることができました。今回のメンバーは全員が同じクラブチーム出身で「チーム福島」としてこれまで幾度となく合同練習会や合宿を通して、競技力を高め合ってきました。今回、私は全国の強豪との差は大きくないと感じました。今後もより一層「チーム福島」一丸となって強化をはかり、5年後、10年後の国体では総合順位での入賞を果たせるようにしていきます。

末筆ながら、日頃より当協会に対しましてご理解とご支援を賜ります関係機関の方々への感謝と共に、今後も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます、ご報告いたします。



フェンシング成年男子

●馬術競技 競技得点 6点 天皇杯 27位 皇后杯 24位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年男子	馬場馬術	4	5	杉 本 隆 雄	Stable FEDERA
	自由演技馬場馬術	8	1	杉 本 隆 雄	Stable FEDERA

●ソフトテニス競技 競技得点 25点 天皇杯 13位 皇后杯 6位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年女子		4	25	大 槻 麗	住友ゴム工業株式会社
				濱 谷 杏 奈	住友ゴム工業株式会社
				岡 村 葵	住友ゴム工業株式会社
				清 水 麻 美	住友ゴム工業株式会社
				小 山 舞	早稲田大学 4年

●カヌー競技 競技得点 37点 天皇杯 16位 皇后杯 26位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年男子	SW K-1(25ゲート)	8	1	鳴 原 健 司	福島県カヌー協会
	SW K-1(15ゲート)	6	3	鳴 原 健 司	福島県カヌー協会
少年男子	SP K-1 500m	3	6	小山田 香 貴	二本松工業高等学校 2年
	SP K-1 200m	2	7	小山田 香 貴	二本松工業高等学校 2年
	SP C-1 500m	8	1	伊 藤 佑 悟	二本松工業高等学校 3年
	SP C-1 200m	6	3	伊 藤 佑 悟	二本松工業高等学校 3年
	SP K-2 500m	2	7	小久保 海 杜	安達高等学校 3年
				青 木 瑞 樹	安達高等学校 2年
	SP K-2 200m	5	4	小久保 海 杜	安達高等学校 3年
				青 木 瑞 樹	安達高等学校 2年
少年女子	SP K-1 500m	4	5	渡 辺 愛 生	安達高等学校 2年



馬術 杉本隆雄選手



ソフトテニス 成年女子(福島民友新聞提供)



カヌー 伊藤佑悟選手 小山田香貴選手 渡辺愛生選手

勝利への挑戦

カヌースプリント競技 監督 小久保 英一知

東北総体において、国体での目標であった複数種目の出場を掲げ、突破する為の作戦を真剣にシミュレーションし、何としても突破し、国体で高得点を取りたい気持ちでいっぱいでした。全精力を注ぎ、挑み、シングル3種目、ペア1種目の出場権獲得。

令和初の国民体育大会。出場選手、全員入賞。有望種目での優勝争い。かつてのカヌースプリントチームの勢いを感じさせてくれた戦いぶりでした。この感動は、勝負しているものにしか味わうことができないものがありました。豪雨と強風による悪天候の予報と幾度もの競技の遅延、選手やチームにとっても、緊張の連続、ストレスは計り知れない状況でした。しかし、怯むことなく、女子カヤックシングル、男子カナディアンシングルで得点を稼ぎ、カヤックシングル(JK-1)で3位以内、カヤックペア(JK-2)で2位以内。予想通りのすばらしい成績でした。特にJK-1では、優勝タイムとの差が0.304秒差。JK-2での優勝争いは、18Km/hのスピードで漕ぎ続け、ゴールでは0.047秒で惜しくも優勝を逃しましたが、過去の大会では、優勝チームには1艇身も離され負けていた距離を、数ミリのビデオ判定を待たなければわからない程の僅差まで縮める事ができたのは、称賛に値します。大歓声のなか緊張感のある雰囲気。悪天候にも負けない地元のカヌー関係者の応援。競技者にとっての計り知れないエネルギーにもなり、素晴らしいひのき舞台で戦えたことは大きな財産です。彼らは、まだ伸びしろのある選手ばかりです。来年は、更に高い表彰台に向け、挑戦を惜しまず邁進し、頑張ると信じています。

おわりに、常日頃より支えて頂いている関係機関の方々への感謝を忘れず、日々精進していくと共に、これからも、ご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。報告と決意表明とさせていただきます。



小久保海杜選手 青木瑞樹選手

●バドミントン競技 競技得点 15点 天皇杯 11位 皇后杯 9位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子		5	7.5	三橋 健也	日本大学 4年
				山澤 直貴	法政大学 3年
				廣澤 紫雲	株式会社デンセン
少年女子		5	7.5	染谷 菜々美	ふたば未来学園高校 3年
				千葉 美采	ふたば未来学園高校 3年
				木村 百伽	ふたば未来学園高校 3年



バドミントン 成年男子(福島民友新聞提供)



バドミントン 少年女子(福島民友新聞提供)



弓道 少年男子 古川航成選手

●弓道競技 競技得点 3点 天皇杯 28位 皇后杯21位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
少年男子	遠的	8	3	古川 航成	葵高等学校 3年
				薄井 健	白河高等学校 3年
				松崎 雄輝	白河高等学校 3年

●トライアスロン競技 競技得点 8点 天皇杯 3位 皇后杯 9位

種別	種目	順位	得点	選手名	所属
成年男子		1	8	鋤崎 隆也	さわかみホールディングス

再逆転優勝

トライアスロン競技 株式会社さわかみホールディングス 鋤崎 隆也

私は、今年、東京にある株式会社さわかみホールディングスに入社し、千葉を拠点にトライアスロン競技に打ち込んできました。今回の茨城国体は、ふるさとである福島県代表として出場させていただき、目標に掲げた「優勝」を成し遂げることができました。

私は、昨年の福井国体には補欠選手として帯同していました。レースに出場できなかった悔しさを同じ舞台で絶対に晴らすという思いを持ち、国体に向けて準備してきました。

スイムの序盤では、先頭の後ろあたりで展開できましたが、ブイを回るにつれ、内側からスタートしたスイムの速い選手とのポジションの奪い合いで少しずつ順位を下げてしまい、最終的にスイムフィニッシュは第二集団で終えることとなりました。

バイクでは、自分たちの集団が追いつき、約20名の大集団となりました。バイクフィニッシュ時のタイム差は、後ろの集団と約1分となっており、ランが得意な選手もいたため、「優勝」するにはギリギリの展開だったと思います。

ランでは、ギリギリのペース維持を心掛け、中盤で先頭に立ち、「優勝」が頭によぎりました。しかし、連戦の疲労から少しずつ身体の動きが鈍くなってくるのが分かりました。ペースは徐々に落ちていき、残り500mになると、後ろの集団から上がってきた選手に抜かれ、心が折れそうになりました。しかし、私のレーススタイルである「最後まで全力、絶対に諦めない」その強い思いから、ラストスパートをかけ、ゴール直前で再逆転優勝を成し遂げることができました。

私は、今回優勝を勝ち取ることができたのは、ふるさとへの思い、そして多くの人の支えがあったからだと自負しています。私は、この国体優勝を一つのステップとして、世界で戦える選手になるために、ふるさと福島への思いを持ち続け、努力を続けていきます。



鋤崎隆也選手

●ソフトボール競技 競技得点 20点 天皇杯 14位 皇后杯 15位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
成年男子		5	20	星 野 嵩 幸	株式会社大宗建設工業
				岡 部 樹 晃	日本体育大学 3年
				佐 藤 輝	ホンダエンジニアリング株式会社
				塩 沼 泰 成	郡山市立宮城小学校(教)
				平 井 恭史郎	協和ボーリング株式会社
				吉 原 陸	早稲田大学 3年
				本 田 拓 史	カルソニックカンサイ福島
				渡 辺 智 範	株式会社平成
				大河原 維 章	株式会社大宗建設工業
				大 野 光 貴	大野工業
				安 斎 圭 祐	東開工業株式会社
				荒 川 成 人	荒川材木店株式会社



ソフトボール 成年男子



スポーツクライミング滝口萌選手 林あいり選手

●スポーツクライミング 競技 競技得点 33点 天皇杯 9位 皇后杯 5位

種 別	種 目	順位	得点	選 手 名	所 属
少年女子	リード	4	15	滝 口 萌	郡山女子大学附属高等学校 1年
				林 あいり	湯本高等学校 2年
	ボルダリング	3	18	滝 口 萌	郡山女子大学附属高等学校 1年
				林 あいり	湯本高等学校 2年

「強い気持ち」が勝ち取った優勝

トライアスロン競技 成年男子監督 蓮沼 哲哉

令和初の国体で、トライアスロン競技成年男子で出場した鋤崎隆也選手が見事に優勝を成し遂げてくれました。鋤崎選手の優勝に至る過程には、多くの試練があったので大変感慨深い優勝でした。

鋤崎選手はいわき市出身で、震災時の出来事や当時練習ができなかったことなどを鮮明に覚えており、常にその思いを胸に練習をしていることを私は知っていました。今年の国体予選は、鋤崎選手の地元いわき市で開催され、大会へ掛ける思いは強く、男子の熾烈な代表争いの中で気迫のレースを見せ、見事優勝を果たし福島県代表となりました。

トライアスロンが国体の正式種目になったのは、2016年の岩手国体からです。会場となったのは東日本大震災の影響が残る釜石でした。鋤崎選手はこの時にも、福島県代表で出場しています。入賞圏内だと確信して出場しましたが、結果16位で終わりました。この岩手国体の時、福島県代表選手たちは皆レベルが高く、女子も含め優勝、入賞を狙って出場してただけに、レース後、鋤崎選手をはじめみんな悔し涙を流したことを覚えています。

鋤崎選手は、大学を卒業後、福島で就職し、「福島から東京オリンピック出場」という目標を掲げ、仕事と練習の両立を図りながら取り組んでいました。しかし、思うように練習ができないことや結果が出ないことに焦りと悔しさを感じていました。悩んだ結果、東京オリンピックに掛ける自分の可能性を信じ、仕事を辞め、トライアスロンに打ち込める環境に所属を変え、必死でトレーニングをしました。その競技に対する強い思いが、茨城国体当日レースでも表れました。出遅れてしまったスイムからバイクで先頭を捉え、そしてランでトップに立つという、まさに鋤崎選手らしい強い気持ちと粘りを象徴するレース展開でした。しかし、ゴール数百メートル前で地元茨城の選手に抜かれ、周囲は優勝を諦めてしまった時、ゴール目線30m、鋤崎選手は激走でその選手をかわし、倒れこむようゴールテープを切り、見事優勝を果たしました。

鋤崎選手の優勝コメントには、「福島の復興と支えてくれた人たちへの感謝、そしてトライアスロンへの熱い思い」がありました。私は指導者として、鋤崎選手に出会えたことを誇りに思います。まだまだ発展途上のトライアスロン競技をもっと普及・強化し、鋤崎選手のような「強い気持ち」を持つ選手をこれからも育てていきたいと思っています。



トライアスロン選手団



鋤崎隆也選手(中央)と蓮沼哲哉監督(一番右)

親子体操教室・指導者養成講習会

in 南相馬市

ひろみちお兄さんと楽しく体操しよう!

9月8日(日)、南相馬市スポーツセンターにおいて「体操のお兄さん」こと佐藤弘道氏を講師にお迎えし、生涯スポーツキャンペーン2019「親子体操教室・実技講習会」を開催しました。佐藤氏には、2007年に開催した第1回目から13年連続で福島に来ていただいております、御本人も福島の子供たちとのふれあいをとても楽しみにしていました。

今年の親子体操教室には81組264名の親子が参加し、実技講習会には幼児教育に携わる指導者80名が参加しました。また、ボランティアスタッフとして、幼稚園・保育園等の先生方や関係者17名、さらには、株式会社福島放送の山崎聡子アナウンサーに司会・進行役を務めていただくなど、たくさんの方の御協力のもと、盛大に会を進めることができました。

親子体操・実技講習会ともに、参加者のみなさんは終始笑顔で、運営する私たちスタッフも自然に身体が動き、一緒に踊りながら活動しました。会の終わりには、佐藤氏にサイン会を行っていただき、親子、指導者、スタッフが一体となって楽しめた本当に素晴らしい時間となりました。

今回、参加していただいた親子・指導者の皆様には、これからの家族のふれあいや指導者としての指導力向上に役立てていただけたら幸いです。そして、今回も快く出演を受け入れていただき、たくさんの笑顔と深い学びを提供して頂いたひろみちお兄さんと関係者の皆様、本当にありがとうございました。福島県体育協会は、これからも本県の子供たちに、運動をすることがもっと好きになってもらえるよう、幼児体操や親子体操の普及、指導者養成に力を入れていきたいと思っております。



親子体操教室編

午前の親子体操教室では、音楽やひろみちお兄さんのかけ声に合わせて、リズムに乗った踊りや、バランスをとりながら行う体操などを通じて、親子で協力して楽しく運動に取り組みました。親と子が目と目を合わせ、微笑みながら活動する姿や、笑い声を上げながら元気いっぱい身体を動かす姿が見られ、あっという間の1時間でした。親子で楽しく運動をすることを通して、親子のふれあいを深めるとともに、体力向上や健康増進を図るとてもよい機会となりました。



実技講習会編

午後の実技講習会では、医学博士の資格を持つひろみちお兄さんの運動・健康に関する専門的な知識を学び、テンポのよいプログラムによって参加者一人一人が元気に活動し、たくさんの汗を流しました。参加者は、佐藤氏の講話に真剣に耳を傾け、積極的に体を動かすことで、子供たちが遊びながら運動能力を向上させたり、運動への興味・関心を高めたりすることができる指導法を数多く学ぶことができました。



あそんで 体力アップアップ事業

幼児体操教室編

本協会では毎年、公益財団法人東日本大震災復興支援財団支援事業の一環として、あそんで体力アップアップ事業「幼児体操教室」を実施しています。今年で4年目となる本事業は、6月上旬よりスタートし、11月末までに35回の幼児体操教室を実施しました。今後、1月下旬まで合計41回の実施を予定しています。

この幼児体操教室は、国公立の幼稚園、保育園、認定こども園及び子育て支援センターの未就学児を対象に「幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分にを行い、多様な動きを身に付けながら体力の向上を図る」とともに、「生涯にわたって健康を維持し、何事にも積極的に取り組む意欲を育むなど、豊かな人生を送るための基盤づくりを進める」ことを目的としています。以下の6つの団体がさまざまな運動プログラムを用意しており、各園では、そのなかから目的に応じたプログラムを選び、目の前の子どもたちの実態に合わせて、効果的なプログラムを実施してきました。

これまで実施してきた幼児体操教室では、子どもたちが普段の生活では活動できない、さまざまな運動を体験することができました。どの団体の活動でも、子どもたち一人一人がたくさんの汗をかき、元気に楽しく運動できました。「楽しい!」「もっとやりたい!」など、たくさんの子供たちの声が飛び交い、大盛況でした。園からは「また、来年もやりたい」「プログラムを工夫して普段でも実施してみたい」との声も多くいただきました。この活動をきっかけに、身体を思い切り動かしながら楽しく運動する子供たちがさらに増えていくことを願い、これからも継続して本事業に取り組んで参ります。



実施団体と
主なプログラム内容

- ①株式会社こども体育研究所…………… 手足を使った運動や投・跳運動、マット運動等
- ②公益社団法人日本3 B体操協会…………… 用具を使った運動(ボール・ベル・ベルター)等
- ③特定非営利活動法人福島県レクリエーション協会…………… 忍者や変身ごっこ等の模倣運動等
- ④福島県エアロビック連盟…………… 声を出しながら音楽に合わせて思いきり体を動かす運動等
- ⑤ダンススタジオV i d…………… 今、流行の曲でH I P H O Pを楽しく踊る運動等
- ⑥福島ファイヤーボンズチアダンススクール…………… ポンポンを持ってリズムに合わせて踊る運動等



指導者養成講習会編

あそんで体力アップアップ事業では、未就学児を対象とした「幼児体操教室」と併せて、幼児の教育に携わる指導者を対象とした「指導者養成講習会」も実施しています。この事業は、国公立の幼稚園、保育園、認定こども園及び子育て支援センターの指導者ならどなたでも参加でき、第1回が7月20日(土)、会津若松市のあいづ総合体育館で、第2回が11月30日(土)、須賀川市の牡丹台体育館で開催されました。

この活動は、子供たちが遊びながら運動能力を伸ばし、スポーツへの興味・関心を高めることができるよう、指導者自身のさらなる指導力向上を図る目的で行われています。今年度は県内3会場で実施予定で、第1回は15名、第2回は18名の先生方が参加しました。

講師には、第1回到会津大学短期大学部幼児教育学科講師の渡部琢也先生、第2回到株式会社こども体育研究所の矢吹晃市先生をお迎えし、それぞれ実技講習と講義を行っていただきました。実技講習では、すぐに実践できる遊びを取り入れた運動や用具を用いた運動などを体験し、講義では幼児の運動能力を高める工夫や幼児期の発達段階を踏まえた運動の取り組ませ方の工夫など、幅広い知識を教えてくださいました。

受講者の先生方は、楽しく笑顔で運動したり、真剣に講師の話に耳をかたむけたりするなど、熱心に学びながら自己のスキルアップに取り組む姿が見られました。今後は、本講習会で学んだ知識や技能を日頃の指導に活かしながら、本県の次世代を担う子どもたちの体力向上のために、さらに指導力を高めていってほしいと思います。

今後は、第3回指導者養成講習会を2月1日(土)に、新舞子体育館(いわき市)で開催予定です。



ふくしまから世界へ! 「ふくしま」アスリート 強化支援事業

「ふくしま」アスリートとは、ふるさとに愛着心を持ち、ふるさとに勇気と希望を与え、オリンピックをはじめとする世界の舞台で活躍が期待される将来有望な選手の皆さんのことです。2020年の東京五輪開催決定を契機にスタートし、今年で6年目を迎える支援事業です。

スタートダッシュミーティング

6月4日(火)に、郡山商工会議所会館において、ふくしまから世界へ! 「ふくしま」アスリート 強化支援事業及びふくしまパラアスリート支援事業合同スタートダッシュミーティングを開催しました。



指定証交付(野矢育夢選手)



決意表明(青木沙弥佳選手 & 半谷静香選手)



Jアス・パラアスリート



講演[富田洋之氏]



講演[穴戸渉氏]



真剣に学ぶ様子

はじめに、指定証交付式を行い、選手を代表して夢アスリートの野矢育夢選手(水泳競技)が須佐喜夫本協会会長より指定証を受け取り、決意表明では、Jクラスアスリートの青木沙弥佳選手(陸上競技)とパラアスリートの半谷静香選手(視覚障がい者柔道競技)が、力強い言葉で今年度の活躍を誓いました。

講演では、2004年アテネオリンピック体操競技金メダリストの富田洋之氏をお招きし、「栄光『金メダル』への道」のタイトルのもと、本番でベストパフォーマンスを発揮するための準備や心構え、練習への取り組み方など、実体験をもとにしたお話をしていただき、選手たちも自身の競技力向上に活かそうとメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。

また、講義では、東海大学体育学部講師の穴戸渉氏に「競技力向上のためのスポーツメンタルトレーニング基礎編」を実施していただき、効果的な目標設定の立て方や、日々の練習や大会本番で実践できるメンタルトレーニングの方法について学びました。

参加した「ふくしま」アスリートと「ふくしまパラアスリート」は、自らの目標実現に向けて、素晴らしいスタートを切ることができました。

ふくしま「アスリート」強化支援事業 夢アスリート一覧表

秋山 優希 陸上競技	遠藤 梨李 ウェイトリフティング	木村 百伽 バドミントン	水井ひらり バドミントン
伊藤 薫士 陸上競技	鈴木 あみ ウェイトリフティング	久保田友之祐 バドミントン	山浦 波瑠 バドミントン
半澤 黎斗 陸上競技	内藤 武蔵 ウェイトリフティング	小林倫太郎 バドミントン	山下 啓輔 バドミントン
藤宮 歩 陸上競技	菊池 魁人 自転車競技	齋藤 駿 バドミントン	由良なぎさ バドミントン
山内 大夢 陸上競技	中村 龍吉 自転車競技	崎野 翔太 バドミントン	吉田 翼 バドミントン
山下 桐子 陸上競技	柴田 祐紀 馬術	佐藤 杏 バドミントン	高橋明日香 バドミントン
岩崎 幹大 水泳	平山 裕汰 フェンシング	杉山 薫 バドミントン	秋山 光希 スケート
野矢 育夢 水泳	湯田 結那 ソフトボール	染谷菜々美 バドミントン	青木 瑞樹 カヌー
松本 圭太 ホッケー	池田真那斗 バドミントン	武井 凜生 バドミントン	小久保海杜 カヌー
佐々木優愛 バasketボール	伊藤 歩 バドミントン	田部 真唯 バドミントン	小山田香貴 カヌー
生田目夕織 バasketボール	稲光翔太郎 バドミントン	千葉 美采 バドミントン	武藤 吉紀 カヌー
半澤 凌太 バasketボール	岩野 滉也 バドミントン	永井 瀬霧 バドミントン	石井 浩平 アーチェリー
福地 真央 バasketボール	内山 智尋 バドミントン	中静 朱里 バドミントン	八島 愛斗 空手道
今村 大地 レスリング	荻原 聖也 バドミントン	廣上 瑠依 バドミントン	長正 憲武 トライアスロン
安藤 千鈴 ウェイトリフティング	小野 涼奈 バドミントン	廣澤 紫雲 バドミントン	
遠藤 朱李 ウェイトリフティング	金子 真大 バドミントン	福本真恵七 バドミントン	

ふくしま「アスリート」強化支援事業 Jクラスアスリート一覧表

青木沙弥佳 陸上競技	河名真寿斗 レスリング	大堀 彩 バドミントン	桃田 賢斗 バドミントン
遠藤 日向 陸上競技	皆川 博恵 レスリング	川上紗恵奈 バドミントン	渡辺 勇大 バドミントン
武石この実 陸上競技	近内 三孝 ウェイトリフティング	古賀 穂 バドミントン	星野 純子 スキー
田母神一喜 陸上競技	穴戸 大輔 ウェイトリフティング	小林 優吾 バドミントン	大河内未来 ボウリング
紫村 仁美 陸上競技	阿部 奎太 ハンドボール	齋藤 太一 バドミントン	
山下 航平 陸上競技	鈴木姫らら ハンドボール	東野 有紗 バドミントン	
山下 潤 陸上競技	窪木 一茂 自転車競技	保木 卓朗 バドミントン	

ふくしま「アスリート」強化支援事業 トップコーチ一覧表

西田 郁子(弓道)	橋本 彰夫(卓球)	宮田 貴志(陸上競技)	佐藤 大起(アイスホッケー)
松崎 法夫(ソフトテニス)	新井まゆみ(スキー)	柳沼 恵子(カヌー)	櫻川 和(ハンドボール)
水野 慎也(バスケットボール)			

「ふくしまJアスリート」ふれあい教室

地域の小中学生と「ふくしまJアスリート」が交流する「ふれあい教室」が、8月10日(土)のカヌー競技(スプリント)をかわきりに開催されました。Jアスリートの質の高い技術を直接見ることで、大きな夢に向かうことの大切さや努力することの意味を交流の中から感じとり、自分の夢や目標、将来の希望につなぐとともに、自ら体を動かす習慣のきっかけづくりになりました。この他、アーチェリー競技、フェンシング競技、ウエイトリフティング競技でも実施しました。



フェンシング競技



カヌー競技



ウエイトリフティング競技



アーチェリー競技

マルチサポート事業「メディカルチェック(前期)」

7月23日(火)から9月5日(木)の期間に、「ふくしまJアスリート」強化支援事業「メディカルチェック」前期の部が公立藤田総合病院において行われました。この事業は、「ふくしまJアスリート」を対象としたメディカルチェックを行うことにより、選手の健康状態、身体的な特性や精神的な課題を把握し、競技力の向上に役立てたり、傷病の予防に繋げたりしていくことを目的としており、前期は17名のJアスリートが参加しました。

7月25日(木)は、陸上競技(男子三段跳び)で日本選手権2連覇を誇る山下航平選手(ANA)をはじめ、2018年度全国高校総体バドミントン競技団体優勝の廣澤紫雲選手(AC長野パルセイロ)、同じく2018年度全国高校総体スケート競技女子パシュート第3位の秋山光希選手(山梨学院大学)の3名が参加しました。整形外科的メディカルチェック、内科的メディカルチェック、コントロールテストなどを実施し、身体の状態を細部まで確認しました。また、管理栄養士からは食事について、スポーツファーマシストからはアンチ・ドーピングについて、それぞれ専門的な指導を受けました。

参加した選手は、各測定に全力で取り組むとともに、各分野の専門的なアドバイスをしっかりと聞き入れることで、自分の身体の特徴や補強すべき部分はもちろん、普段の食事や生活習慣にまで意識を高めることができたと思います。ぜひ、メディカルチェックの結果を今後のトレーニングに活用し、自分自身のために、ふくしまのために、より一層飛躍されていくことを願っています。これからも頑張ってください。

後期は来年2～3月に実施の予定です。



秋山光希選手(山梨学院大学)



山下航平選手(ANA)



廣澤紫雲選手(AC長野パルセイロ)

「トップコーチ養成事業」基礎研修Ⅱ・課題解決研修Ⅱ

●「トップコーチ養成事業」基礎研修Ⅱ

今年度の「トップコーチ養成事業」基礎研修Ⅱが6月19日(水)に、ふくしま中町会館6階北会議室にて開催されました。

講師に筑波大学客員教授の勝田隆氏をお招きして、『「みる」を「みる」～コーチング再考～』を演題に、平成30年度から指定されたトップコーチを対象に研修が行われました。受講者からは「平等と公平を大切にして、選手一人ひとりを伸ばし、世界で通用する選手を育てたい」と力強い抱負が述べられました。

●課題解決研修Ⅱ

11月8日(金)福島テルサにおいて、課題解決研修Ⅱ兼福島県体育協会指導者研修会を開催しました。研修会には、指定を受けたトップコーチの他に、県内で活躍されている指導者を含む24名が参加しました。講師として、朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科教授、福島大学名誉教授でもある白石豊氏をお招きし、『「スポーツ指導 その技と心」～Athlete First, Winning Secondを考える～』を演題に講義していただき、後半には質疑応答形式で指導者の課題等へのアドバイスをいただきました。

どちらの研修会も、トップコーチの一人一人が「ふくしまから世界へ!」を実現するための知識を得ようと、真剣に研修に取り組んでいました。

総括研修Ⅱは、令和2年2月に予定しています。



研修の様子



H30～R1指定トップコーチ



受講者の様子



白石豊氏

令和元年度(公財)福島県体育協会認定アスレティックトレーナースキルアップ講習会

この講習会は、H27年度から隔年ごとに開催し、3回目の開催となりました。競技者の健康管理、傷害予防、スポーツ外傷・障害の応急処置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等を担当する県体協認定アスレティックトレーナーのスキルの向上を図ることを目的としており、今年は11名の県体協認定アスレティックトレーナーが参加しました。

期日 11月9日(土)・10日(日) 会場 福島県青少年会館

講師・内容 【11月9日】

- ①鬼澤 武則先生(県体協スポーツ医・科学委員)
[スポーツテーピング]
- ②佐藤 善嗣先生(県薬剤師会スポーツファーマシスト)
[アンチ・ドーピング]
- ③二瓶 敦志先生(県体協スポーツ医・科学委員)
[用具を使用したトレーニング]

【11月10日】

- ④會澤 寿先生(日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)
[けがの応急処置]
- ⑤佐久間 茜先生(日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士)
[スポーツと栄養]
- ⑥関根 智美先生(県体協認定アスレティックトレーナー)
[コンディショニング・ストレッチ]



「スポーツテーピング」では、実習が行われ、鬼澤先生のテーピングを巻く技術を間近で見て、実際に指導を受けながら実習に取り組んだことは、貴重な体験となりました。また、「コンディショニング・ストレッチ」では、2020東京オリンピック出場が内定しているカヌー競技の宮田悠佑氏とのライブ中継を行い、実際にコンディショニングの仕方やアスレティックトレーナーに求めることなどトップアスリートの生の声を聞きながら、具体的な知識を深めることができました。そのほか、様々な角度から専門的な講義や実習が行われ、受講者は熱心に講義を受けたり、実技に取り組んだりしました。

県体協認定アスレティックトレーナーには、それぞれの現場での活躍と日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格取得に向け、さらにスキルアップされることを期待します。

講習会時終了後には、「今日は、みなさんと一緒に学習できて有意義な講習会となりました。たくさんの資料もいただきありがとうございました。」と話す受講者もあり、充実した2日間となりました。

令和元年度(公財)福島県体育協会認定スポーツ栄養士スキルアップ講習会

県体協スポーツ医・科学委員会スポーツ栄養士部会では、平成28年度から養成講習会を2回開催してきましたが、昨年度からはスキルアップ講習会を実施し今年で2回目の開催となりました。この講習会は、スポーツ医事・トレーニング相談事業等の講師、スポーツ愛好者、競技スポーツ活動における栄養・食事に関する専門的なサポートを担当する県体協認定スポーツ栄養士のスキルの向上を図ることを目的としています。県内各地から認定スポーツ栄養士15名が参加しました。

期日 7月28日(日) 会場 福島県青少年会館

講師・内容 「スポーツ選手のサプリメントの是非について」

- ①山崎有理子先生(日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士)
- ②鍛冶内大輔先生(県薬剤師会スポーツファーマシスト)
- ③二瓶 敦志先生(県体協認定アスレティックトレーナー)
- 「スポーツの現場から(卓球競技)～スポーツ栄養士に期待すること～」
- ④深谷 亮幸先生(県スポーツ課主任指導主事)
- 「競技別栄養サポート(卓球競技)について」
- ⑤水野 時子先生(県体協認定スポーツ栄養士)



この講習会は専門科目の集合講習となり、スポーツ栄養士としての資質を向上させるために、日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士や県薬剤師会所属スポーツファーマシストなどの講師の方々をお招きし、講義や演習を行っていただきました。

午前、スポーツファーマシストやスポーツ栄養士、アスレティックトレーナーとしての立場から、スポーツ選手とスポーツ栄養士の関わり方について、具体例を挙げながらわかりやすく講義をしていただきました。

午後は、深谷先生からスポーツ現場で期待される栄養士の役割について話を聞き、その後県体協認定スポーツ栄養士の水野先生に、栄養に関する様々なテーマをもとに演習をしていただきました。グループ活動の中で、お互いの意見や情報を積極的に交換しながら、課題を解決していききました。講師の先生方には、それぞれのグループにも具体的なアドバイスをいただきました。

受講者も熱心に講義を受け、お互いの意見や情報交換を積極的に行いながらスキルアップに取り組む姿が見られました。受講者の皆様には、それぞれの現場でより一層御活躍されるとともに、本県スポーツの発展に力を発揮していただければと思います。

ふくしま広域スポーツセンター 地域スポーツ活動に関わる人材育成セミナー

公認アシスタントマネジャー養成講習会

2019年度ふくしま広域スポーツセンター公認アシスタントマネジャー養成講習会を、7月13日（土）と7月28日（日）の両日にわたり、郡山市安積総合学習センターにて実施しました。県内外から、総合型地域スポーツクラブに携わっている方、設立に向けて準備に携わっている方、市町村の生涯スポーツ担当者、スポーツクラブに興味のある方等、33名の参加があり、受講者は熱心に講師の先生の話に耳を傾けていました。グループワークでは、積極的に意見交換を行い交流を深めるとともに、コミュニケーションスキルの向上を図っていました。

第1回

7月13日(土)

1

「地域スポーツクラブとは」「地域スポーツクラブの現状」

講師：ふくしま広域スポーツセンター プロジェクトマネジャー 長澤 敏行

2

「クラブのつくり方」「クラブの運営」

講師：NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF 菊地 正氏

3

クラブマネジャー講話

講師：NPO法人会津美里クラブ衆 前田 くに江氏



長澤プロジェクトマネジャーによる講義・ワーク



菊地正氏による講義



前田くに江氏による講話

4

「法人格の取得」

講師：福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課 草刈 貴浩氏

5

「クラブマネジャー講話」

講師：NPO法人スポーツコミュニケーション・かくだ 遠藤 良則氏

6

「クラブマネジャーの役割」

講師：早稲田大学スポーツビジネス研究所 松澤 淳子氏



草刈貴浩氏による講義



遠藤良則氏による講義



松澤淳子氏による講義・ワーク



尾形幸男センター長あいさつ



集合写真

今年度は33名の方が受講し、

全員が修了されました。

本県におけるセミナー修了者は、

累計553名になりました。

指導者・講師派遣補助事業

1 目的

総合型地域スポーツクラブ（以後クラブ）の活動状況や運営状況等のニーズに応じた指導者や講師を派遣することにより、クラブの活動充実と自立支援の促進を図ることを目的とします。

2 事業内容

県内外の指導者等を派遣します。この事業に係わる経費は本センターが負担します。

例1) 現在開催している教室の指導者の資質向上や会員のレベルアップを図りたいと考えているクラブへ指導者を派遣します。

例2) 次年度に向けて新規教室開設を考えて準備を進めているクラブへ指導者を派遣します。

例3) クラブ運営に関する研修会の内容に合わせて、講師を派遣します。

3 派遣の実際（一部掲載）

派遣指導者：大内 克泰 氏

内 容：ライフキネティック

概 要：高齢者を対象とした脳活性化プログラム「ライフキネティック教室」を実施、現在の自分の状態を知ることから始まり、認知機能向上のトレーニングを中心に行いました。

派遣指導者：佐藤 巧太 氏

内 容：バスケットボールの指導（小学生対象）

概 要：上学年ブロックと下学年ブロックに分かれ、それぞれの発達段階や技能に応じてルール設定を行ったので、積極的に活動していました。ミニゲームまで発展し、見ている保護者も盛り上がる事ができました。

派遣指導者：福島大学よさこいクラブ 源種～Seed～ 代表 清水 雄一郎 氏

内 容：東京五輪音頭2020の振付指導

概 要：東京オリンピック・パラリンピックに向けクラブ会員が踊れるように、各クラブの代表者が指導を受けました。動きが速い場面も指導者が分かりやすく流れを解説してくれました。

派遣指導者：福島県民踊指導者連絡協議会 齋藤 洋子 氏

内 容：東京五輪音頭2020の振付指導

概 要：東京オリンピック・パラリンピックに向けて機運醸成するように、クラブ会員で東京五輪音頭の振付を教わりました。

派遣指導者：会津大学短期大学部 渡部 琢也 氏

内 容：体組成測定結果に基づいた生活アドバイス

概 要：喜多方市慶徳公民館まつりの中で、体組成測定と生活アドバイスをいただきました。参加者は自分の筋肉量やバランスを知り、講師からのアドバイスを熱心に聞いていました。



4 お問い合わせURL <https://www.sports-fukushima.or.jp/koiki/k-haken/>

指導者・講師バンクを御活用ください

ふくしま広域スポーツセンターでは、競技スポーツ系、生涯スポーツ系、講義系の指導者・講師の人材バンクを作りました。総合型地域スポーツクラブのスクールやサークルの指導者、クラブスタッフや会員のスキルアップ研修会の講師等お探しの際は、ぜひお問い合わせください。詳しくは、以下のURLにアクセスしてください。ただし、パスワードの入力が必要で、総合型地域スポーツクラブ関係者にはパスワードを開示しております。ふくしま広域スポーツセンターまで、お問い合わせください。

また、各団体の公認資格を所有している指導者の皆様は、指導機会を増やすために、ぜひこの人材バンクに御登録ください。こちらは、どなたでもアクセスできます。ただし、ふくしま広域スポーツセンターの登録基準に満たない方は登録できないこともございます。

<https://www.sports-fukushima.or.jp/koiki/k-bank/>

タグラグビー教材の貸出しを始めました

2019年ラグビーワールドカップ日本開催、大変盛り上がりしました。この興奮が冷めやらぬうちにタグラグビーの教材を貸し出します。

この教材を使用し、クラブのイベントや新教室の準備、タグラグビーの普及や巧みさを身に付ける運動教室等に御活用ください。詳しくは、以下のURLにアクセスしてください。

<https://www.sports-fukushima.or.jp/18086/>

特例認定NPO法人 いわきFスポーツクラブ

当クラブは平成20年2月、いわき市では5番目の総合型地域スポーツクラブ「いわきふれあいスポーツクラブ」としていわき市中央台を拠点に設立しました。平成27年1月には、特定非営利活動法人の法人格取得と共に「いわきFスポーツクラブ」へと改名し、更に平成31年2月には特例認定NPOの認証を頂き、今年度で11年目の活動に入っています。

いつでも、どこでも、だれでも参加できる地域スポーツクラブとして、現在はスポーツ活動8種目、文化活動2種目、各種大会・イベント10件の他、委託事業1件、助成事業2件など、多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしています。

また、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)という特徴を持ち、地域住民によって自主的・主体的に運営しています。

当クラブは全国総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の構成クラブとしての役割を果たすべき活動を展開してきたところです。しかし、あの東日本大震災が起きました。そこで、悲惨な状況からの一日も早い復興と、被災者の心と身体の健康を願いFゴルフ(ファミリーゴルフ)を考案しました。それが、いよいよ本格デビューとなります。

震災復興のシンボリックなスポーツとして、福島県スポーツ振興基金の助成を受け、今年度は県内7地区での地区大会を開催するほか、いわき市での県大会を予定しています。

これまでの体験会を通し、子どもから高齢者まで、誰もが楽しめるスポーツとして脚光を浴びていますので、全国の皆様に親しんで頂けるものと確信しています。

Fゴルフってどんなスポーツなの?については、当ホームページ内で紹介していますので是非ご覧下さい。

また、当クラブは地域スポーツの拠点として、子どもの居場所づくりと地域住民の交流の場づくりを積極的に推進し、より一層、皆様に愛され、親しまれるスポーツクラブを目指して参りますので、引き続き皆様方の温かい御支援並びに御協力を切にお願い申し上げます。



問合せ

特例認定NPO法人いわき Fスポーツクラブ

住 所 〒971-8015 いわき市好間町川中子字古川30

TEL・FAX 0246-35-5574

MAIL ifsc@iwakifreai.org

東京2020オリンピック・パラリンピック 復興ふくしま推進会議&ふくしま大交流ミーティング

期日 7月24日(水) **会場** ホテル福島グリーンパレス

東京2020オリンピックの開幕まで1年前となった7月24日(水)に、県内のスポーツ、文化をはじめ、商工、観光、農林水産、教育関係など144団体で構成される「東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議」を開催し、昨年度の官民連携による取組紹介とともに、オリンピック・パラリンピック教育推進校である県立あさか開成高校の生徒が「オリンピック・ムーブメントとふくしまプライド～私たちにできること～」をテーマに、大会理念である「共生社会」や「持続可能性」の取組について事例発表を行いました。

また、会議に引き続いて開催した「ふくしま大交流ミーティング」では、「世界のホームラン王」王貞治さん、ソフトボール女子日本代表「ソフトジャパン」をお招きし、「東京オリンピック・パラリンピックまであと1年!」をテーマに、内堀知事とパネルディスカッションを行い、子どもたちをはじめ、多くの県民の皆さんが参加されました。福島でのオリンピック開催に向けて、キャプテンの山田恵里選手からは「たくさんの応援を頂いている。金メダルを取ることが恩返しになると思っている。」と意気込みが語られ、1年後に迫った東京2020大会に向けて、県内の開催機運はますます高まってきました。



復興ふくしま推進会議会長である内堀知事の開会挨拶



事務局から昨年度の大交流プロジェクトの取組事例を紹介



「オリンピック・ムーブメントとふくしまプライド～私たちにできること～」を題し、あさか開成高校生徒による事例発表



「世界のホームラン王」王貞治さん



ソフトボール女子日本代表「ソフトジャパン」



子どもたちと出演者による1年前ポーズでのフォトセッションで県内開催をPR

2019プロ野球イースタン・リーグ公式戦 & 日本女子ソフトボールリーグ1部第8節 福島大会

期日 イースタン・リーグ公式戦: 9月28日(土)
日本女子ソフトボールリーグ: 10月5日(土)～6日(日)

会場 県営あづま球場

東京2020オリンピックに向けて改修を終えた県営あづま球場のリニューアルオープンを記念して、オリンピック開幕のちょうど300日前となる9月28日(土)に、2019プロ野球イースタン・リーグ公式戦「東北楽天ゴールデンイーグルスvs.北海道日本ハムファイターズ」が開催されました。全面人工芝に生まれ変わったあづま球場には、約5,400人もの観客が詰め掛け、新生あづま球場の完成を祝うとともに、白熱した試合を繰り広げる選手たちに大声援が送られました。

また、10月5日(土)から6日(日)には、東京2020オリンピックに向けたテストイベントとして、日本女子ソフトボールリーグ1部福島大会が開催されました。日本代表候補の選手たちが多数在籍する強豪チームの試合が行われ、多くの観客が日本トップレベルの選手たちの熱いプレーに魅了され、オリンピックへの期待を膨らませました。



内堀知事とキッズアンバサダーによる本県競技開催PR



プロ野球イースタン・リーグ公式戦



内堀知事がイースタン・リーグ公式戦を観戦



試合終了後の選手ふれあいイベント



日本女子ソフトボールリーグ1部福島大会



試合前セレモニー（県産品贈呈）

(公財)福島県体育協会賛助会員名簿

～私たちは福島県のスポーツ振興を支援します～

《法人・団体 特別会員》

会津商工信用組合 会津漆器調製(株) (株)アラジン (株)いちい いわき信用組合 (株)インフォメーション・ネットワーク福島 エクセルツリー(株) (株)岡部 (株)オノヤスポーツ 加藤建材工業(株) (有)カネチョウ坂本商店 (株)環境分析研究所 (株)久野製作所 クリナップ(株)いわき事業所 クリヤマ(株)仙台営業所 (株)グリーンテック (株)グレイス福島 (医)須賀川セントラル眼科	住友ゴム工業(株)白河工場 (公財)仁泉会 (株)セントラル住設 (福)創世福祉事業団 相双五城信用組合 相馬共同火力発電(株) 相馬秩父生コン(株) (株)大東銀行 (株)ダイユーエイト (一財)竹田健康財団 (株)テレビユー福島 東亜道路工業(株)福島営業所 東京海上日動あんしん生命(株) 東京海上日動火災保険(株) (株)東邦カード (株)東邦銀行 (株)東邦クレジットサービス 東邦情報システム(株)	東邦信用保証(株) 東邦土地建物(株) 東邦ビル(株) 東邦リース(株) 東北建設(株) (株)トヨタレンタリース福島 中村土木(株) 日本全業工業(株) 日本中央競馬会福島競馬場 (株)二丸屋山口商店 (株)ハニーズホールディングス (株)福島銀行 福島県議会スポーツ振興議員連盟 福島県ゴルフ連盟 福島県商工信用組合 福島県信用保証協会 福島県旅館ホテル生活衛生同業組合 福島商事(株)	(株)福島中央テレビ 福島テレビ(株) 福島トヨタ自動車(株) (株)福島放送 (一財)ふくしま未来研究会 (株)福島民報社 福島民友新聞社 福浜大一建設(株) 公立藤田総合病院 (株)マルト (株)モリヨシ技研 山本工業(株) (株)ヨークベニマル 若松測量設計(株) ※他に匿名希望 2 法人・団体
--	--	--	---

《法人・団体 会員》

(株)会津技研 (株)アクセラ (株)アスク (有)吾妻印刷 (株)アポロガス あんしんFPふおあさいと (株)安藤組 入三機材(株) 磐城通運(株) (株)ウエディングエルティ 内池醸造(株) (株)エアコレクト (株)海老名建設 FSGカレッジリーグ (株)エフエム福島 (株)エムケーテック (有)エンドースクリーン (有)大波商店 (一財)大原記念財団 小名浜製錬(株)小名浜製錬所 (有)おりおり (株)加地和組 菅野建設(株) (株)絹川建設工業 キョウワセキュリティオン(株) キング印刷(株)	(株)キスキ (株)グラコム (株)クラロン (株)クレハ (株)クレハ環境 クレハ錦建設(株) (株)幸楽苑ホールディングス 小勝左官工業(株) さかい動物病院 (株)佐藤商事 (株)佐藤信博建築設計事務所 (有)佐平 (株)サンライト 庄司建設工業(株) スポーツメンタルトレーニング 関場建設(株) (株)セルラー電話サービス福島 (株)善邦 第一温調工業(株) 大宝建設(株) 大邦産業(株) (株)高橋建設 タカラ印刷(株) 月電工業(株) 月電ソフトウエア(株) 東栄物産(株)	東信建設(株) 東北索道協会福島地区部会 (株)東北装美 東北電力(株)福島電力センター (株)中里工務店 にいの運送(有) 西会津工業会 (株)NIPPO福島統括事業所 (有)野地建設 原町港湾運送(株) 東日本テクノレッジ(株) (有)挽野自動車 (株)ファミリーケア 福島県剣道連盟 福島県信用金庫協会 福島県ダンススポーツ連盟 福島県バウンドテニス協会 福島県南土建工業(株) (有)フクシマスポーツランド (株)福島製作所 福島日産自動車(株) 福島訪問歯科医院 福島ヤクルト販売(株) ふくしま陸上スポーツ少年団 福島リコビー(株) (株)福南電気	(株)フジゴルフガーデン (公財)藤田教育振興会 (株)藤野 (株)Best Business Partners (有)古川瓦建材 北斗印刷(株) 堀江工業(株) (株)マルコ物流 (株)丸福織物 (株)丸や運送 みずの内科クリニック (株)三宅新聞店 名鉄観光サービス(株)福島支店 (株)メディア・ネットワーク (株)本宮会計センター (株)ヤスタ創建 (株)山口工芸 山田建築(株) 山本商事(株) (株)友愛 (株)ラジオ福島 (株)ル・プロジェ 六陽印刷(株) ワイザーエル(株) ワタナベカーペット(株) ※他に匿名希望 6 法人・団体
---	--	---	---

《個人 特別会員》

壺 岐 ひろみ 菊 池 信太郎 須 佐 喜 夫 御代田 公 男 宗 形 守 敏

《個人 会員》

阿 部 正 美 安 藤 喜 勝 五十嵐 義 大 橋 哲 男 砂子田 敦 博 伊 藤 隆 司 鶴 沼 秀 雄 遠 藤 均 太 田 豊 秋	尾 形 幸 男 片 平 俊 夫 菅 野 日出喜 木 村 喜八郎 国 井 裕 一 小 松 信 之 小 山 太 郎 齋 藤 久 男	坂 本 孝 夫 佐久間 弘 朋 櫻 井 十 次 佐 藤 傳 一 佐 藤 弘 樹 佐 藤 昌 志 大 戸 正 幸	篠 木 敏 明 柴 野 好 宏 下 山 田 浩 一 鈴 木 義 祐 鈴 木 千 賀子 高 倉 好 博 滝 田 勝 彦 富 田 孝 志	永 井 隆 太 郎 岐 博 長 中 島 茂 典 新 井 田 大 花 井 宣 明 花 安 紀 夫 平 石 家 治 廣 瀬 敬 彦 深 谷 秀 三	福 本 隆 星 香 里 星 本 文 堀 田 満 堀 川 哲 男 班 目 秀 雄 松 井 遵 一郎 松 本 裕 治	水 戸 眞由子 森 崎 俊 夫 結 城 勝 志 米 沢 修 仁 渡 邊 正 吉 ※他に匿名希望3名
---	--	---	---	---	---	--

(令和元年11月30日現在) (敬称略)

賛助会員加入のお願い

本協会では、本県スポーツ振興を目的とする事業に御賛同いただける賛助会員を年間を通して募集しております。

福島県民の皆様、本協会を応援いただける全国の皆様、ぜひ賛助会員として加入され、御支援を賜りますようお願いいたします。

賛助会費(年会費)

○個人賛助会員
1口 10,000円(1口以上何口でも可)

○法人・団体賛助会員
1口 10,000円(1口以上何口でも可)
※個人会員は3口以上、法人・団体会員は5口以上で特別会員となります。

詳しくは、本協会ホームページをご覧ください。
<https://www.sports-fukushima.or.jp/>

問い合わせ先

〒960-8043 福島市中町8番2号
福島県自治会館6階
公益財団法人 福島県体育協会
電話 024(521)7896
FAX 024(521)7971
E-mail
info@sports-fukushima.or.jp

編集後記

第74回国民体育大会では、3競技4種目で優勝し、その他の競技でも多数の入賞を果たすなど、福島県選手団の気迫あふれる戦いが随所に見られ、スポーツを通じて県民に勇気と感動を届けてくれました。生涯スポーツ分野では「あそんで体力アップアップ事業」を今年度も継続し、未来を担う子供たちが遊びながら運動能力を向上させるとともに、指導者には効果的な指導法を学ぶ機会を数多く提供することができました。

本協会では、ホームページをリニューアルして2年目を迎えました。アクセス数が昨年同様に20万件を超え、本協会の取組やスポーツを「する・みる・ささえる」県民の皆様の活躍を、より多くの人に知ってもらえるようになりました。今後も県民の皆様には、様々なスポーツ情報を提供できるよう、より一層の努力をして参りますので、変わらぬ御理解と御協力をお願いします。

スポーツ安全保険®

対象となる事故

団体・グループ活動中の事故/往復中の事故

保険期間

2019年4月1日午前0時から

2020年3月31日午後12時まで



加入区分・掛金・補償額

加入 対象者	補償対象となる団体・グループ活動	加入 区分	年間掛金 (1人当たり)	傷害保険金額				賠償責任保険 支払限度額 (免責金額なし)	突然死葬祭 費用保険 支払限度額
				死亡	後遺障害 (最高)	入院日額 (1日目から/ 180日限度)	通院日額 (1日目から/ 30日限度)		
子ども (中学生 以下) ※特別支 援学校 高等部 の生徒 を含む	スポーツ活動 文化活動 ボランティア活動 地域活動	A1	800 円	2,000 万円	3,000 万円	4,000 円	1,500 円	対人・対物賠償 合算1事故 5億円 (ただし、対人賠償は 1人 1億円)	180万円
	上記団体活動に加え、個人活動も対象 上段: 団体活動中およびその往復中の補償額 下段: 上記以外(個人活動など)の補償額	AW	1,450 円	2,100 万円 熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒の 場合、保険金額はA1区分と同額	3,150 万円	5,000 円	2,000 円	対人・対物賠償 合算1事故 5億 500万円 (ただし、対人賠償は 1人 1億500万円)	
				100 万円 熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒は 対象となりません。	150 万円	1,000 円	500 円	対人・対物賠償 合算1事故 500万円	対象外
大人 (高校生 以上)	スポーツ活動(指導・審判を含む) ※右記年齢の判断は、「2019年4月1日」 と「掛金の支払い手続きを行う日」のい ずれか遅い日の年齢を基準とします。 ※A2区分で対象となる活動も補償され ます。	C 64歳以下	1,850 円	2,000 万円	3,000 万円	4,000 円	1,500 円	対人・対物賠償 合算1事故 5億円 (ただし、対人賠償は 1人 1億円) ⚠ 自動車事故に よって賠償責任 を負った場合は、 補償の対象とな りません。	180万円
		B 65歳以上	1,200 円	600 万円	900 万円	1,800 円	1,000 円		
	文化活動 ボランティア活動 地域活動 準備・片付け・応援・団体員の送迎 ※スポーツ活動中の事故は補償の対象と なりません。	A2 A2区分は 65歳以上 の方も加入 できます。	800 円	2,000 万円	3,000 万円	4,000 円	1,500 円		
全年齢	危険度の高いスポーツ(指導・審判を含む)	D	11,000 円	500 万円	750 万円	1,800 円	1,000 円		

年間掛金には、制度運営費(10円)が含まれます。



公益財団法人 スポーツ安全協会 福島県支部

〒960-8065 福島市杉妻町5-75
福島県庁東分庁舎3号館

TEL 024-526-4600

電話受付時間 午前9時～12時 午後1時～5時(土、日、祝日を除く。)



保険の詳しい内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。

※インターネットからも加入受付をおこなっております。

スポーツ安全保険

検索

この広告はスポーツ安全保険の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課 公務第2部 文教公務室
TEL 03-3515-4346(平日9:00～17:00)

〈共同引受保険会社(2019年4月予定)〉

あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン日本興亜
大同火災 東京海上日動 日新火災 三井住友海上 AIG損保